

パノラマエックス線写真の骨粗鬆症スクリーニング 指標と現在歯数との関連

高橋 瑞菜

松本歯科大学 大学院歯学独立研究科 臨床病態評価学講座
(主指導教員：山田 一尋 教授)

松本歯科大学大学院歯学独立研究科博士（歯学）学位申請論文

Association between number of teeth present and
mandibular cortical in Japanese men and women aged 40
years and older: a cross - study

MIZUNA TAKAHASHI

*Department of Hard Tissue Research, Graduate School of Oral Medicine
Matsumoto Dental University
(Chief Academic Advisor : Professor Kazuhiro Yamada)*

The thesis submitted to the Graduate School of Oral Medicine,
Matsumoto Dental University, for the degree Ph. D. (in Dentistry)

パノラマ X 線写真で検出された下顎骨皮質骨の粗鬆化は高齢者の骨粗鬆症のリスクの増加と関連している。さらに、多くの報告では歯の喪失と骨粗鬆症の間の関連性を実証している。しかし、下顎骨皮質骨の粗鬆化が歯の喪失と関連は不明である。そこで、本研究の目的は、40歳以上の日本人の男女の下顎骨皮質骨の粗鬆化と、現在歯数との関連を明らかにすることとした。

本学大学病院を受診し、歯科治療のためパノラマ X 線写真を撮影した839名（男性293名、女性546名）の患者で、年齢は40歳から89歳（平均 [SD] 63.7歳 [10.6]）を被験者とした。

重回帰分析では、軽度から中等度粗鬆化（P=

0.007）、そして高度粗鬆化（ $P < 0.001$ ）が歯の喪失と有意に関連していた。共変量分散分析にて寄与因子を補正した分析では、下顎骨の粗鬆化と現在歯数との間に有意な関連を示した（ $P < 0.001$ ）。高度粗鬆化の被験者は正常な皮質骨の被験者（平均 [SE] 20.7 本 [0.5] vs 23.4 本 [0.3], $P < 0.001$ ）と、軽度から中等度粗鬆化（22.2 本 [0.4], $P = 0.04$ ）の被験者に比べ有意に少ない歯数を示した。軽度から中等度粗鬆化の被験者は正常な皮質骨の被験者（ $P = 0.033$ ）に比べ有意に少ない歯数示した。

我々の結果は、40歳以上の日本人男女の皮質骨の粗鬆化と現在歯数の有意な関連を示した。